



2011年10月3日
在日米国商工会議所

**ACCJ、2011 東京チャリティー・ウォークソンを開催
日比谷公園に400名以上の参加者が集う**
—復活した「自由の鐘」の打ち初め式と同時にスタート—

在日米国商工会議所(ACCJ)は、第3回チャリティー・ウォークソンを10月1日(土)に開催。400名以上の参加者が、日比谷公園周辺の約5キロを歩きました。

今年のウォークソンは、日比谷公園にとって特別な日と重なりました。米国フィラデルフィアにオリジナルが存在する「自由の鐘」のレプリカの修復作業が終わり、およそ60年ぶりにその音色が復活しました。「自由の鐘」は、1952年にアメリカ市民有志の好意により日本に贈られ、日比谷公園に設置されました。

マイケル・アルファントACCJ会頭は、「東京でのチャリティー・ウォークソンに会頭として参加するのは今回が初めてです。参加した会員メンバー全員から、コミュニティーに還元したいというエネルギーと熱意が伝わってきます。」と述べました。加えて、

「復活した自由の鐘の打ち初め式が、弊所主催のチャリティー・ウォークソンと同じ日に開催されたことを光栄に思います。2つのイベントは、日米関係の歴史、深さ、そして力強さを象徴していると考えます。」と述べました。

チャリティー・ウォークソンとは、歩くことでチャリティーに参加できるイベントです。ACCJ会員とご家族、そしてゲストの方々には参加費としての2,500円(各チケット)、そして18歳以下の参加者からは、1,000円(各チケット)を寄付して頂きました。また、20社以上のスポンサー企業からのご協賛を頂きました。(2011年10月3日現在)

ACCJスペシャル・イベント共同委員長のジョセフ・ウェバーは、「全てのボランティアの方々、運営スタッフ、そしてスポンサーの皆様、特にボーイング ジャパン、シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社とアメリカンファミリー生命保険会社に感謝を申し上げます。」と述べました。

以上

チャリティー・ウォークソンおよび12月に開催予定のチャリティー・ボールからの寄付金を合わせた収益金が、次の対象団体に寄付されます。

ACCJ Community Service Fund, The Mike Makiko Fund for the Homeless, The Soma City Scholarship Fund for Orphans and Victims of the Disaster, Fukushima City Public School System, Taylor Anderson Fund for Ishinomaki, Smiles and Dreams: Tohoku Kids Project and Nadia (a non-profit clean up organization in Tohoku).

###

1115 J

—在日米国商工会議所について—

在日米国商工会議所（ACCJ）は、米国企業40社により1948年に設立された日本で最大の外資系経済団体です。米国企業の日本における経営者を中心に、現在は約1000社を代表する会員で構成され、東京、名古屋、大阪に事務所を置いています。日米両国政府や経済団体等との協力関係の下、「日米の経済関係の更なる進展、米国企業および会員活動の支援、そして、日本における国際的なビジネス環境の強化」というミッションの実現に向けた活動を展開しています。また、60以上の業界・分野別委員会を中心に活動を行い、意見書やパブリック・コメント、白書等を通じた政策提言や、政策や経済の動向等について年間500以上のイベントやセミナーを開催するとともに、各種チャリティー等の企業の社会的責任（CSR）活動にも積極的に取り組んでいます。

【お問い合わせ】

同件に関するお問い合わせは、在日米国商工会議所 渉外室メディアコーディネーター 野田由比子（電話: 03-3433-6542; メール: ynoda@accj.or.jp）までお願い致します。